

2020

非常用持ち出し袋

Emergency Bag

AD27 土田 ゆき
指導教員 谷上 欣也

1. 研究目的

日本は地震や台風などの災害が多い国であるが、いざというときの備えは充分とはいえない。災害がおきれば非常時の備えについての関心は高まるが、それは一時的なもので、すぐに忘れられてしまう。家庭内の備えについては日常的に使用するものではないために多くの不備が生じている。そこで今回は日常的に意識出来る非常用持ち出し袋を提案する。

2. 調査と分析

数軒の家庭の非常時の備えについて調査したところ多くの家庭で次のような問題点があげられた。

- ・食品や飲料水の賞味期限が過ぎている。
- ・いざというときに取り出しにくい位置にある。
- ・市販の非常用持ち出し袋は見た目が悪い。
また、インテリアと合わない。
- ・家族全員が非常用持ち出し袋の置いてある場所や中身の詳細を知らない。
- ・必要なものが必要なだけ用意できていない。
- ・保管の仕方が各家庭で違う。

3. コンセプトの立案

「見せる非常用持ち出し袋」

- ・インテリアに合う外観
- ・毎日意識していただけるもの
- ・避難時にも可動性の良いリュックタイプ

4. デザイン展開

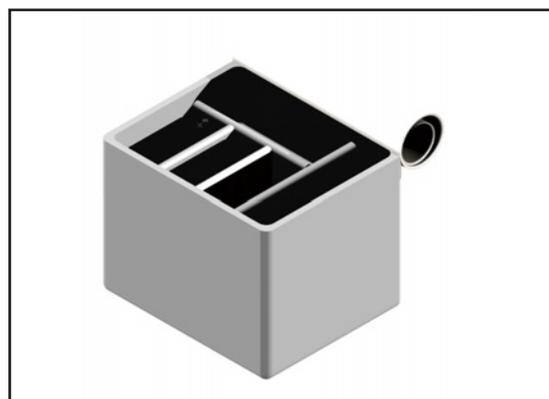
最初は外観で目につく「意識」を考えていたが、習慣や行動で「意識」することを重視した。

そこで普段から使用し、持ち歩いている財布・鍵・携帯電話・眼鏡などの貴重品に目をつけた。これらは帰宅すると机の上に置いたり、鞆の中に入れておきやすいことが多い。これら置き場と非常用持ち出し袋を一緒にすることで、常に意識することができる。

普段は開いている箱部分に貴重品を保管しを閉め、背負って逃げる。設置場所は寝室を想定した。昼間は外出が多いため、災害時の備えは夜や朝を想定しているからである。外観素材は防災カーテン生地を使用し、燃えにくさに考慮した。

裏地は暗闇でも白く光って見つけやすいように中身の物の角が当たっても破けにくいように生成り生地を使った。中には仕切りをつけ、背負った時に中身が動かないようにした。

5. 完成図



6. 結論

4月から一人暮らしをする女性に意見を聞いた。考え方がおもしろい、生成りが暗闇でも白く光って見えやすいという感想を頂いた。また、常備している状態も良いが、避難先での滞在が長引いた先での使い勝手が良さそうと好評だった。だが背負って逃げる際に少し邪魔になると大きさについて指摘を受けた。反射板が付いていると便利だという意見があったので、いつもは巻いて収納しているフタ部分につければインテリアにも影響無く出来るとおもった。

もっと調査と実験を繰り返し、理解と考察を深めることができたなら良かったと感じた。

7. 参考文献

「手作りBag はじめの一步」

著 梅谷育代

「阪神大震災を調べる！！ホームページ」

home.kobe-u.com/top/